

カブドットコム証券株式会社

(東証 1部8703)

2019年3月期第2四半期

決算説明資料

2018年10月24日



カブドットコム証券
わたしたちは  MUFGです。

2018Q2ハイライト

株式等個人市場

- ・ 7～8月は市況低迷。9月活況で日経平均が2万4000円回復
- ・ 二市場での信用買残高は4ヶ月連続で減少

2018Q2業績

- ・ 市況低迷で株式手数料と金融収支が伸び悩み前Q比減収
- ・ 販管費も微増で前Q比減益

リテール業務

- ・ 信用取引の上位プラン適用条件引下げによりシェア上昇
- ・ つみたてNISA口座の取り扱い開始

BtoBtoC業務

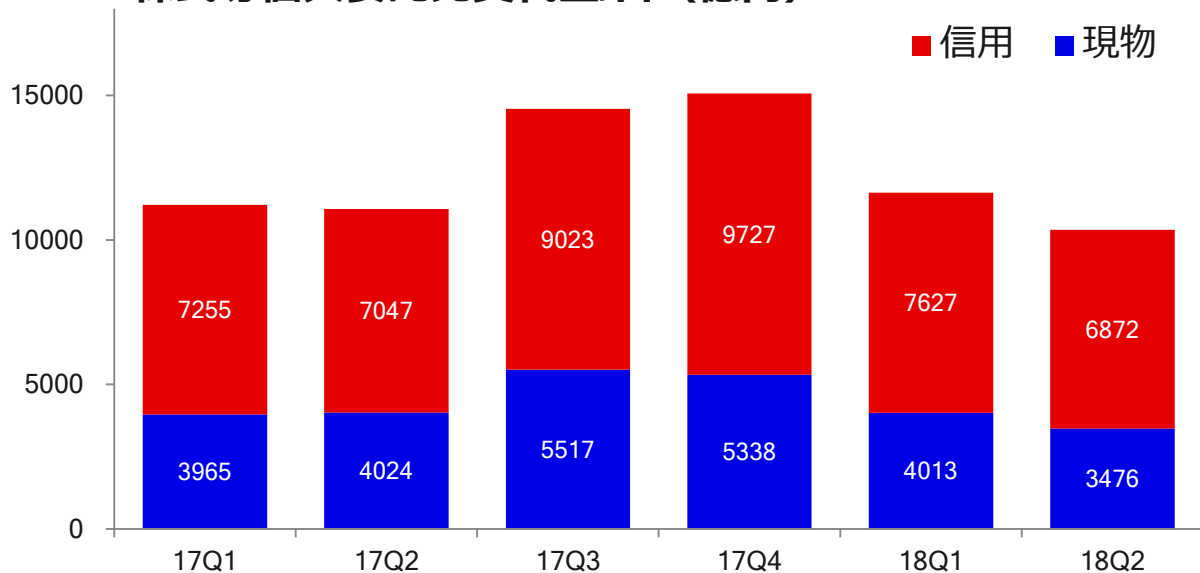
- ・ じぶん銀行向けの店頭FXホワイトラベルの基盤を刷新
- ・ システム基盤にAWSを採用し、kabu.com APIを刷新

■ 決算概況

当期の取り組み

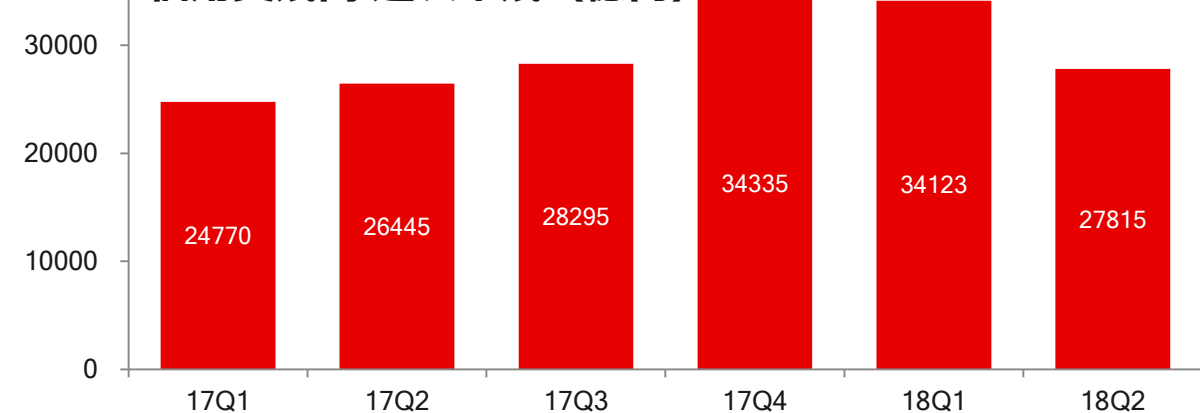
市況

株式等個人委託売買代金/日（億円）



- 株式等個人委託売買代金/日は、前Q比▲11%
- 株式個人は売越

信用買残高/週次平残（億円）



- 信用買残高/週次平残は減少、前Q比▲18%

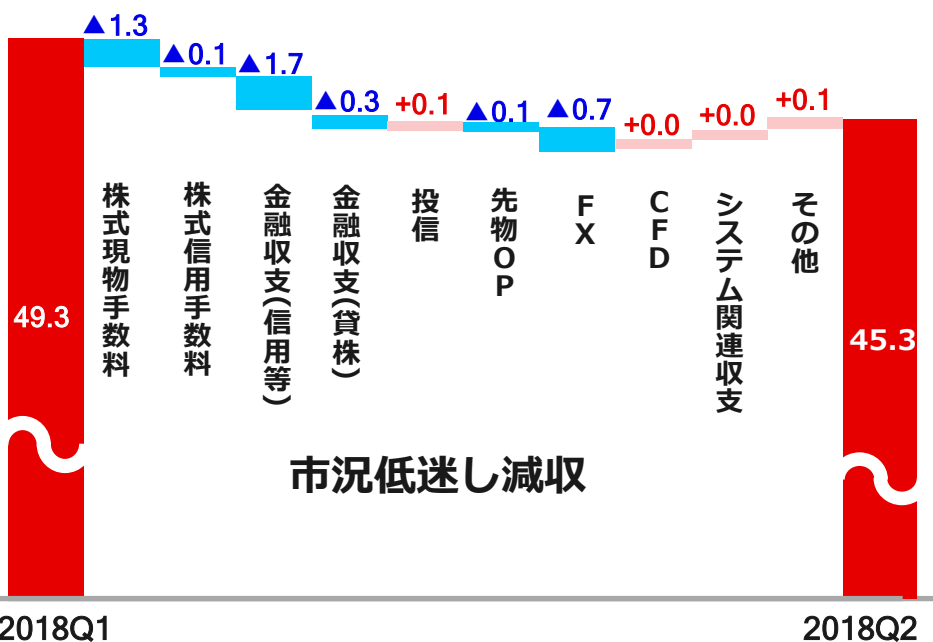
決算サマリー(前Q比)

9月後半に活況となるものの、株式個人市況は低迷し減収
販管費微増も、広告宣伝費抑制を継続

(億円)	2018Q1	2018Q2	増減額	増減率
営業収益	57.7	51.5	▲6.2	▲10.8%
純営業収益	49.3	45.3	▲3.9	▲8.1%
販管費	28.0	29.0	+0.9	+3.3%
営業利益	21.2	16.3	▲4.9	▲23.1%
経常利益	21.7	16.4	▲5.2	▲24.3%
当期純利益	15.4	11.3	▲4.0	▲26.3%

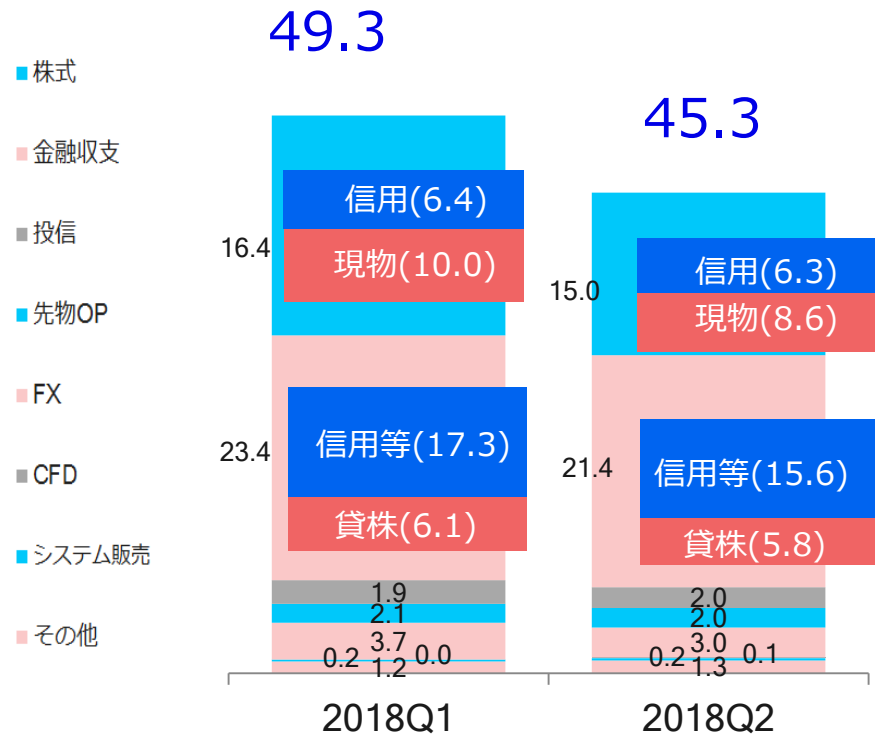
純営業収益

■ 前四半期比
(億円)



■ 前四半期比
(億円)

8%減

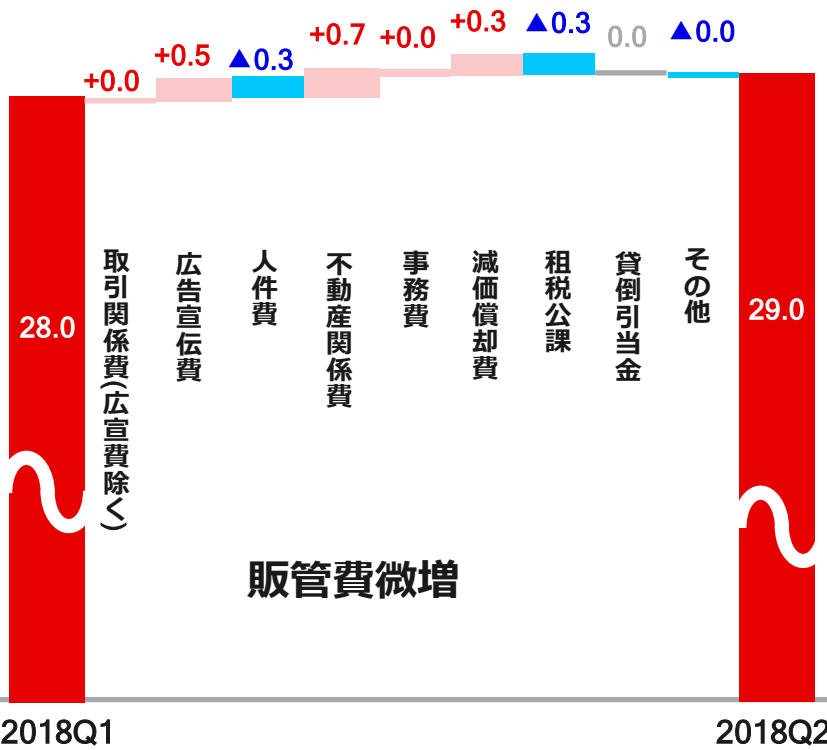


※「金融収支（信用等）」は、金融収支のうち貸株による収支を差し引いたもの



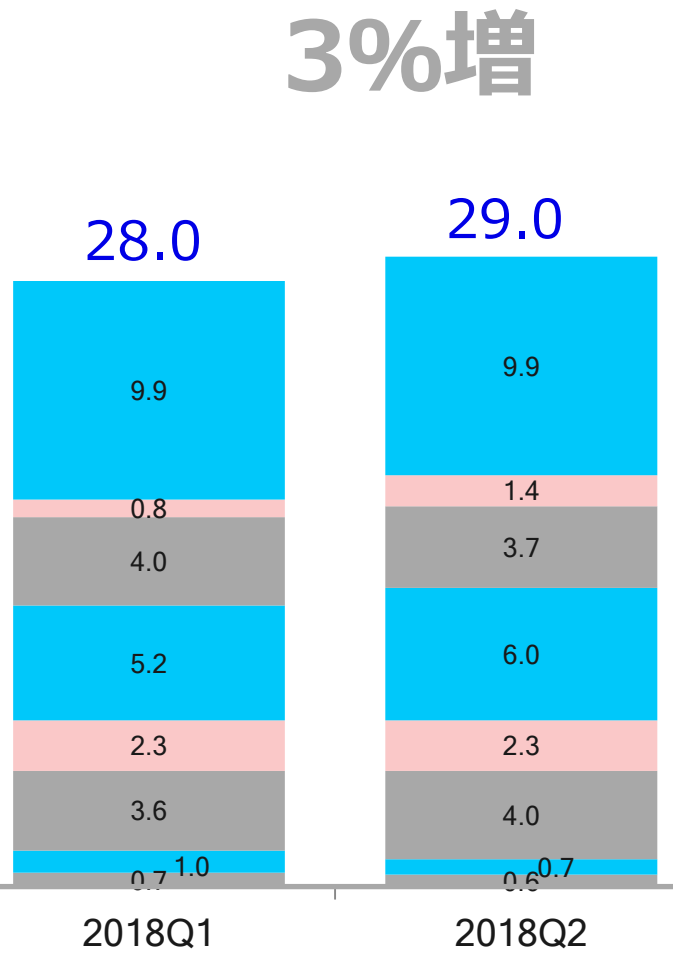
販管費

■ 前四半期比
(億円)



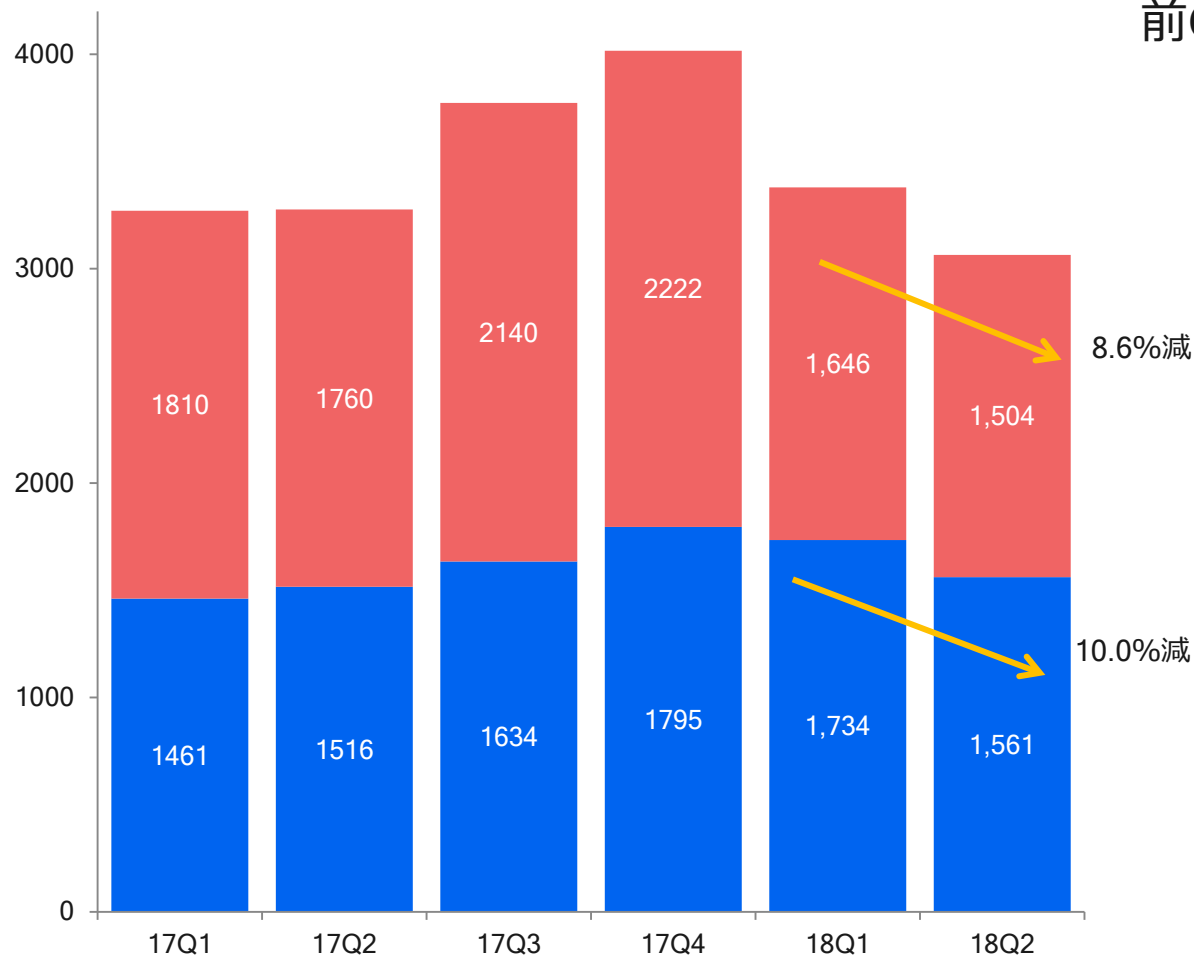
■ 前四半期比
(億円)

- 取引関係費 (広告費除く)
- 広告宣伝費
- 人件費
- 不動産関係費
- 事務費
- 減価償却費
- 租税公課
- 貸倒引当金
- その他



リテール業務(株式)

■ 株式委託手数料 ■ 金融収支（信用等）



株式等個人委託売買代金/日が前Q比▲11%に対して、

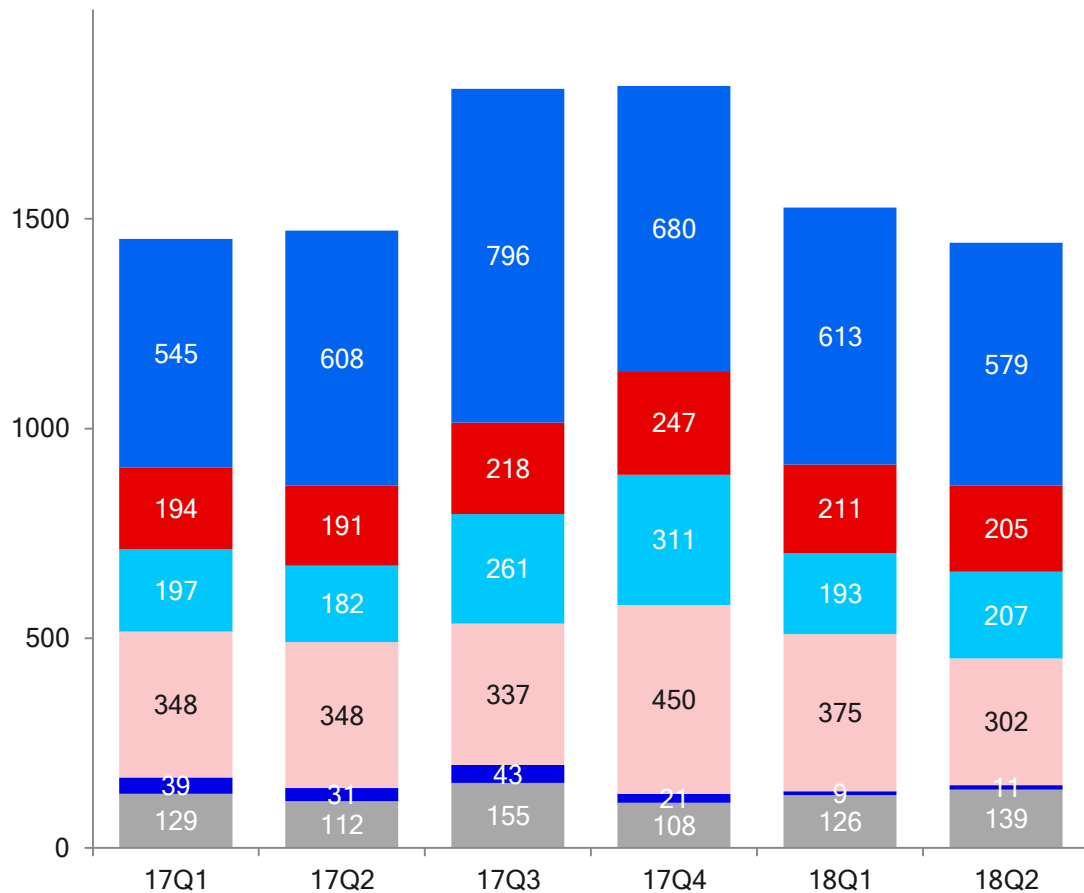
9%減

株式委託手数料：▲142百万円
金融収支（信用等）：▲173百万円

※「金融収支（信用等）」は金融収支のうち、貸株による収支を差し引いたもの

リテール業務(その他)

■ 金融収支（貸株） ■ 投信 ■ 先物OP ■ FX ■ CFD ■ その他



6%減

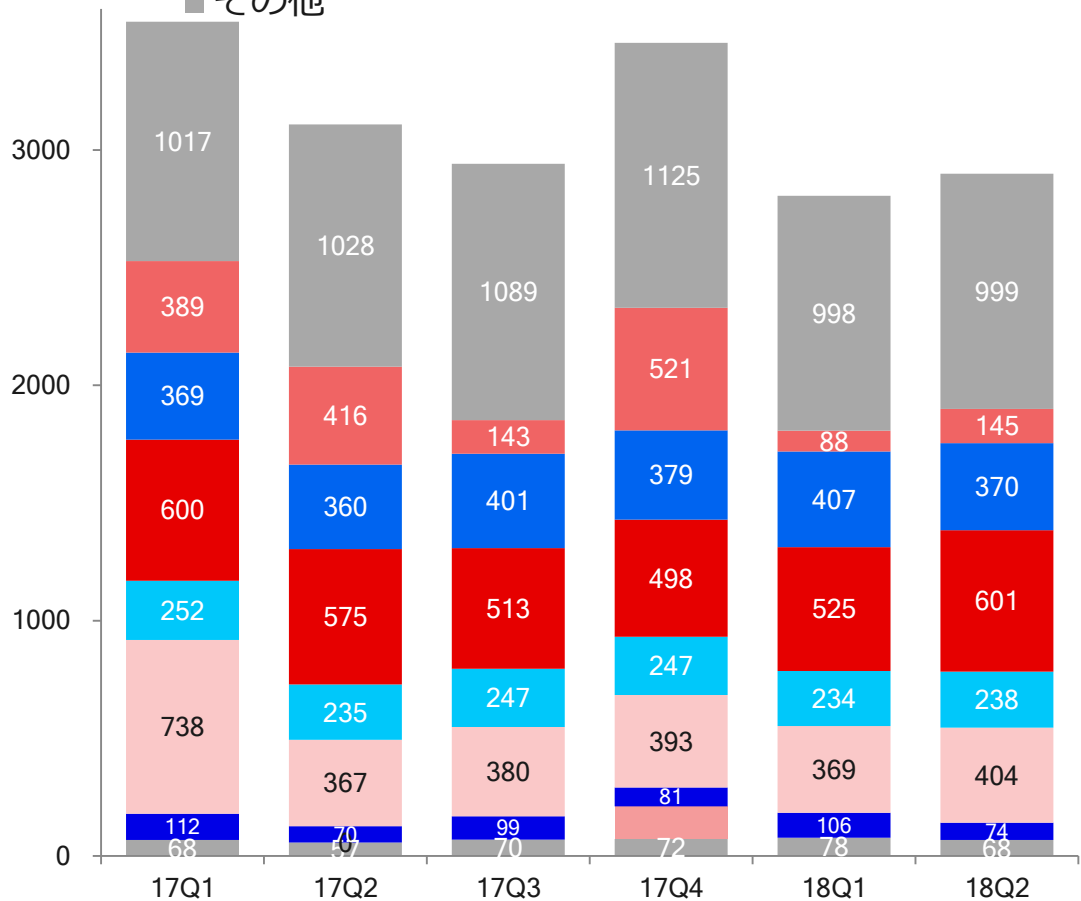
先物OP : +13百万円

FX : ▲73百万円

金融収支（貸株） : ▲33百万円

販管費推移(四半期)

- 取引関係費（広宣費除く）
- 人件費
- 事務費
- 租税公課
- その他
- 広告宣伝費
- 不動産関係費
- 減価償却費
- 貸倒引当金



3%増

広告宣伝費： + 56百万円
不動産関係費： + 75百万円
減価償却費： + 34百万円
人件費： ▲ 37百万円



2018上期ハイライト

株式等個人市場

- ・ 前期に過去最大の買越しを記録した株式個人は売越
- ・ 信用買残高（週次平残）は前期からの反動減

2018上期業績

- ・ 市況低迷により前年同期比で減収
- ・ 広告宣伝費削減で販管費を抑制し前年同期比は増益

リテール業務

- ・ SORを搭載した株式執行システムを導入
- ・ 売買審査業務において、人工知能（AI）を導入

BtoBtoC業務

- ・ じぶん銀行の口座開設堅調。仲介比率12%と高水準を維持
- ・ 「auで株式割」の割引対象拡大を行い、他業種との協業強化

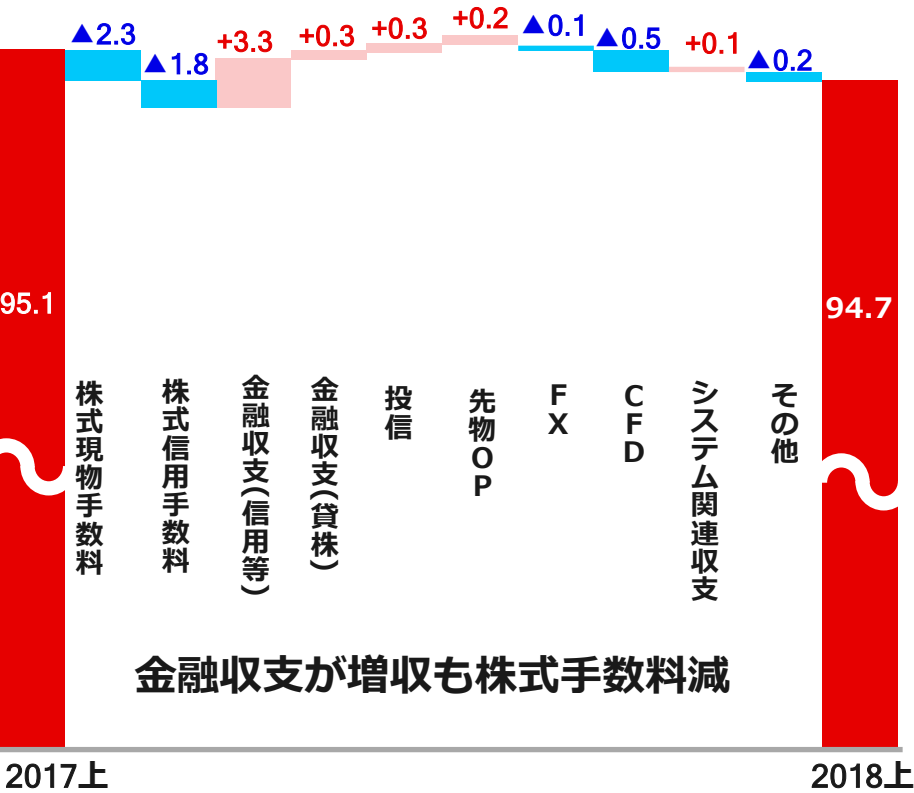
決算サマリー(前同比)

個人売上の低迷を受け、営業収益（前年同期比▲4.6%）と減収販管費（前年同期比▲9.4%）は、広告宣伝費の抑制が要因

(億円)	2017上期	2018上期	増減額	増減率
営業収益	113.8	109.2	▲4.6	▲4.0%
純営業収益	95.1	94.7	▲0.3	▲0.4%
販管費	66.5	57.1	▲9.4	▲14.2%
営業利益	28.5	37.6	+9.0	+31.8%
経常利益	29.0	38.2	+9.2	+31.7%
当期純利益	25.9	26.8	+0.9	+3.6%

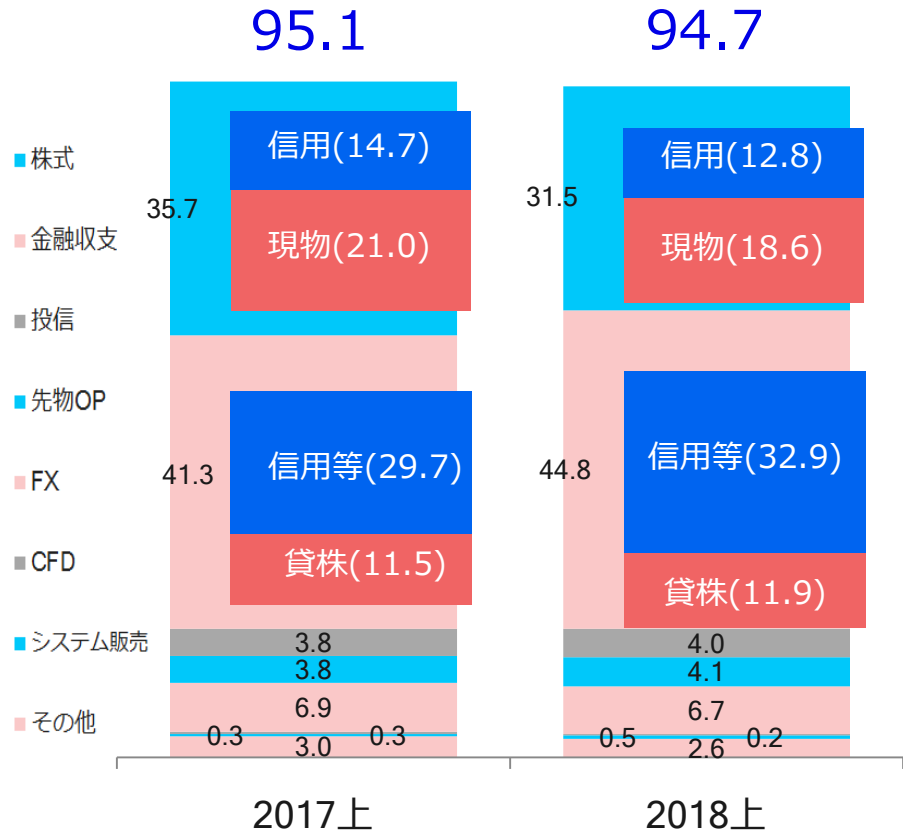
純営業収益

■ 前年同期比（累積）
（億円）



■ 前年同期比（累積）
（億円）

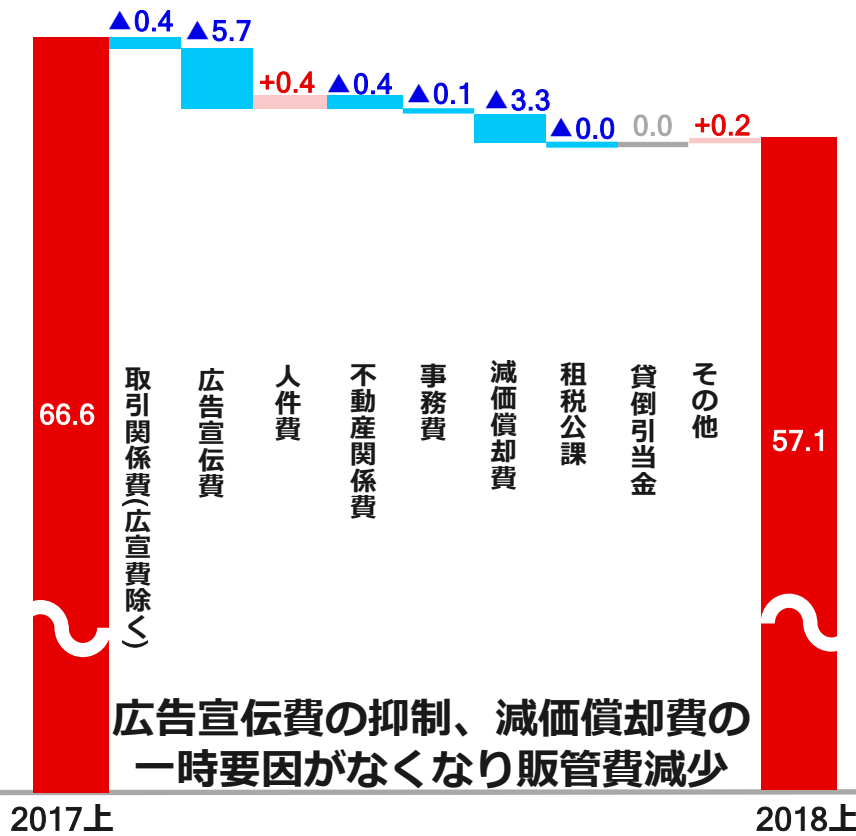
横ばい



※「金融収支（信用等）」は、金融収支のうち貸株による収支を差し引いたもの

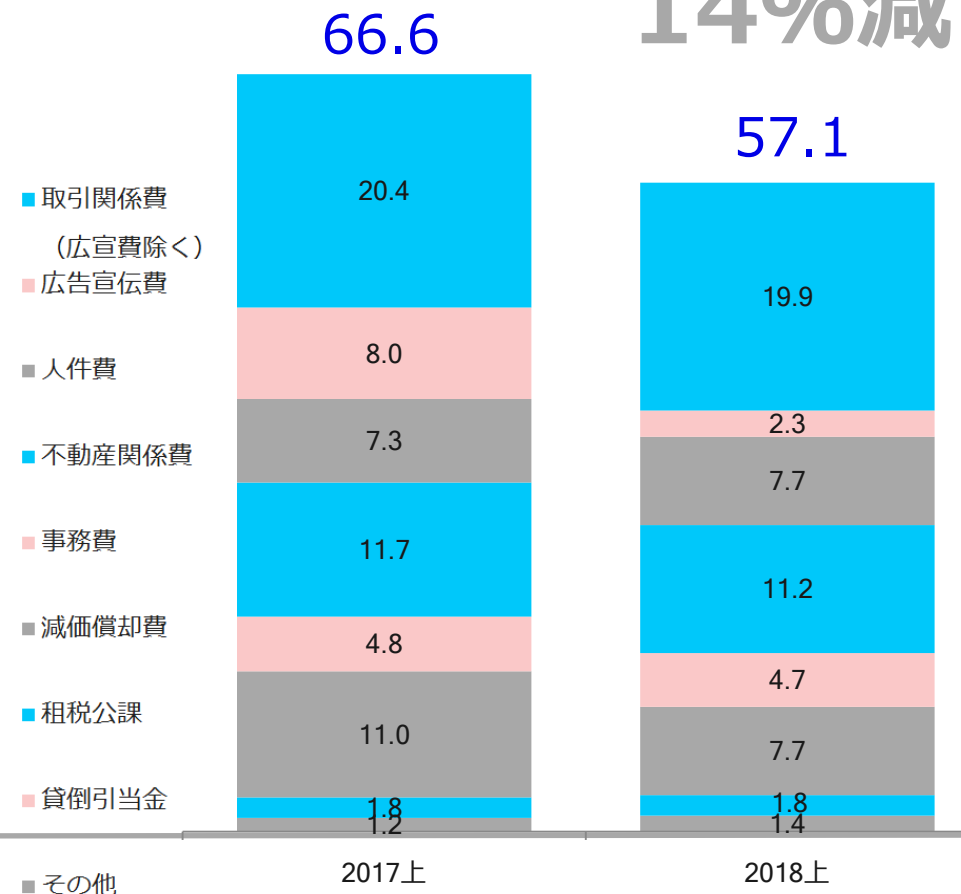
販管費

■ 前年同期比（累積）
（億円）



広告宣伝費の抑制、減価償却費の一時要因がなくなり販管費減少

■ 前年同期比
（億円）



14%減



主要経営指数

収益強化、積極的な株主還元、資本効率の向上により、ROE20%達成を目指す。

	2017年度				2018年度	
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q1	Q2
ROE *当期純利益累計を年率換算して算出	13.5%	12.1%	14.3%	14.5%	14.3%	12.2%
純営業収益経常利益率	25%	36%	48%	40%	44%	36%
BtoBtoC収益比率推移	7.3%	7.6%	7.4%	7.4%	8.3%	8.5%
ノントラディショナル収益	39.0%	39.2%	40.3%	38.8%	39.5%	40.3%
社員1人あたり経常利益 (百万円)	9.6	13.9	21.5	18.8	17.4	13.0
自己資本規制比率	443%	396%	421%	372%	399%	376%

※ノントラディショナル収益とは、トラディショナル収益（API、金融商品仲介を除く株式委託手数料及び信用金融収支）以外の収益の合計

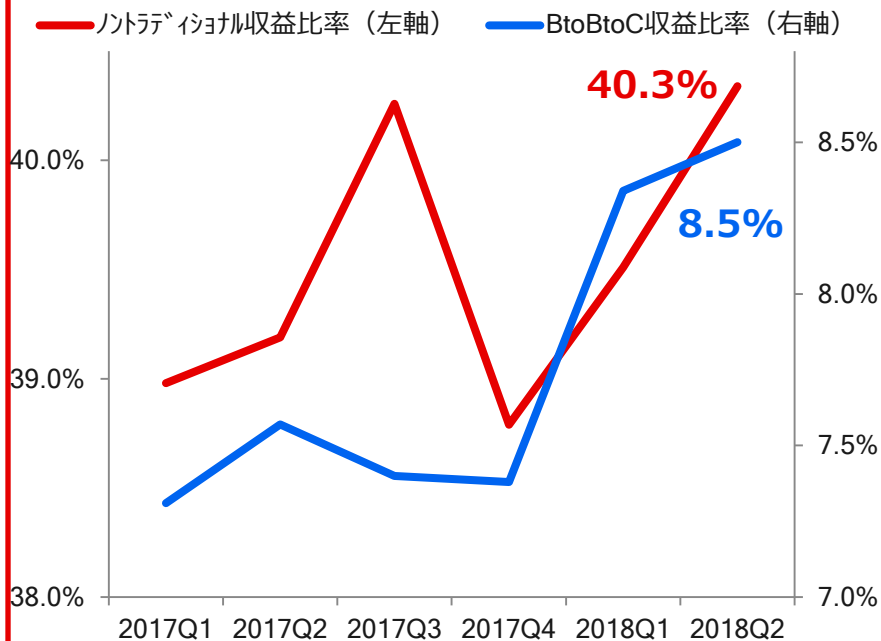
※BtoBtoC収益とは、ノントラディショナル収益の一部であり、API、金融商品仲介、ASP、システム販売収支による収益の合計

主要KGI

多様性No.1

(ノントラディショナル収益・BtoBtoC収益比率推移)

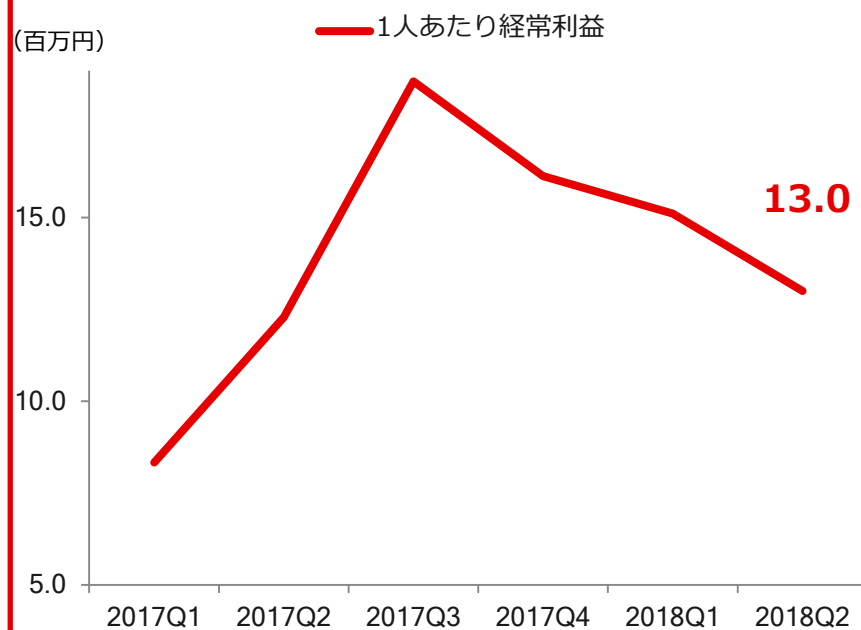
収益源の多様化を図り、ノントラディショナル収益およびBtoBtoC収益比率を高めてまいります。



効率性No.1

(1人あたり経常利益推移)

業務運営・手法を刷新により、生産性と効率性の向上を図ってまいります。



※ノントラディショナル収益とは、トラディショナル収益（API、金融商品仲介を除く株式委託手数料及び信用金融収支）以外の収益の合計

※BtoBtoC収益とは、ノントラディショナル収益の一部であり、API、金融商品仲介、ASP、システム販売収支による収益の合計

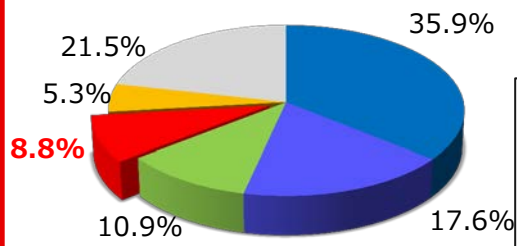
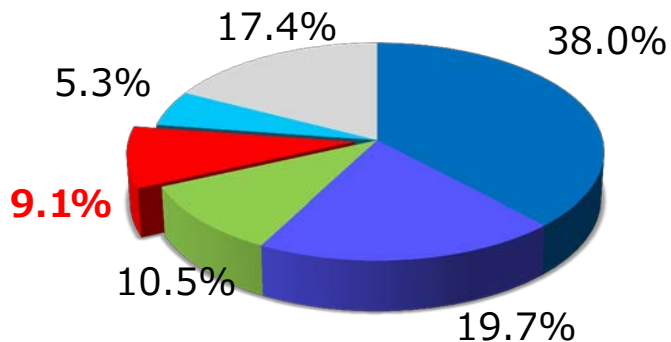
決算概況

■ 当期の取り組み

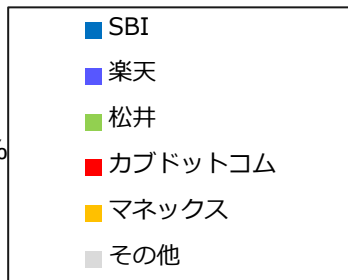
株式等シェア

株式個人は売越

2018Q2当社株式等シェアは9.1%

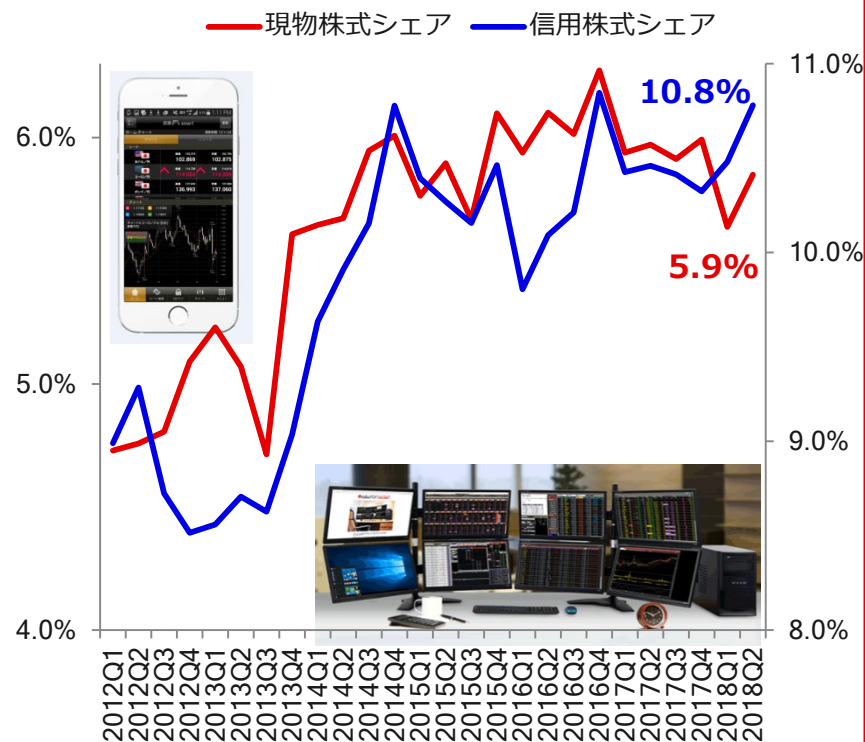


2018年度第1四半期
(4~6月)



当社株式等シェア推移

2018Q2当社現物シェア5.9%、信用シェア10.8%



信用手数料等の改定

①信用取引の1ヶ月間手数料無料・金利優遇となるプラチナプラン・ゴールドプランの適用条件を、7月適用分から、大幅に緩和しました。

プラチナプラン



手数料無料・
金利優遇条件を

大幅緩和

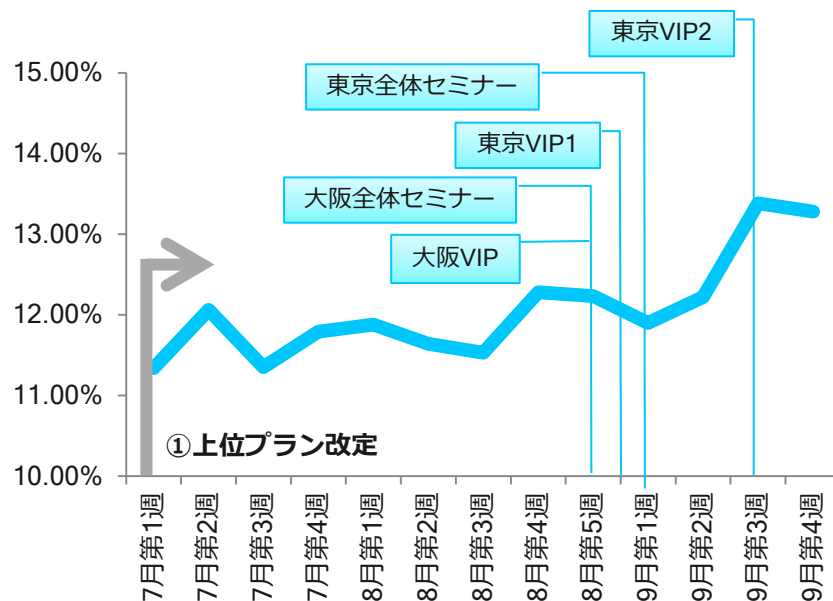


ゴールドプラン

②中大口顧客の信用取引活性化を目論み、18年夏に全顧客セミナーを東京/大阪で実施、さらに大口顧客向けVIP懇親会を8月～各地で3回実施、当社の新手数料/金利を重点訴求しました。

信用シェアの上昇

上位プラン適用条件引下げ（①）により、また両施策のセミナー等での重点的なご案内により、信用取引の当社約定金額シェアが上昇しました。



つみたてNISA取扱い開始

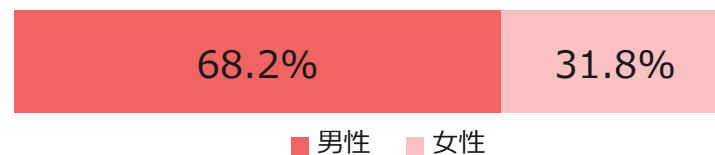
初心者でも始めやすい制度である、つみたてNISAの申込み受付を2018年6月30日から開始し、同年8月1日より、つみたてNISA口座での発注が可能となりました。



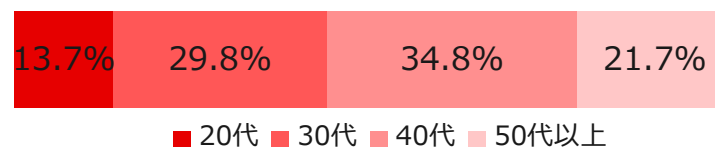
また、つみたてNISA取扱い開始に合わせて、抽選で1,500名様に1,000円が当たる「つみたてNISAスタートキャンペーン」を実施しました。

口座の状況

男女別（2018年9月末）



年代別（2018年9月末）



買付金額上位銘柄（2018年8月～9月累計）

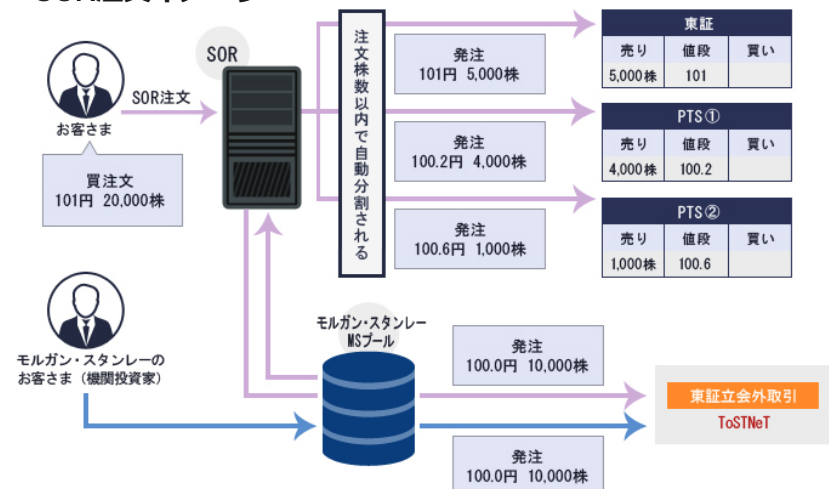
No.	銘柄名
1	eMAXIS Slim 先進国株式インデックス
2	ひふみプラス
3	eMAXIS Slim バランス（8資産均等型）
4	eMAXIS Slim 全世界株式（除く日本）
5	楽天・全米株式インデックス・ファンド

リテール業務

SOR導入 (スマート・オーダー・ルーティング)

SORを搭載した株式執行システムの提供を開始しました。

■ SOR注文イメージ



米モルガン・スタンレーがグローバルの機関投資家に提供しているSORを搭載した株式執行システムを導入することにより、個人投資家のお客さまに対し機関投資家向けと同等の機能を提供することが可能となります。

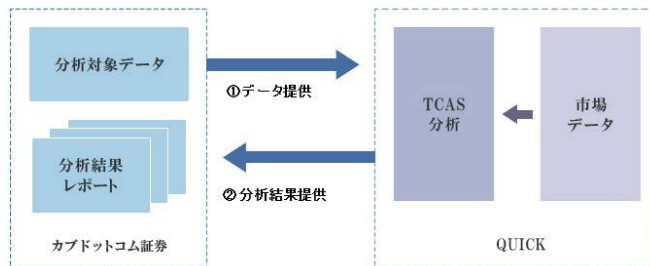
■ 利用申込状況

SORのサービスは、取引経験等申込み基準を満たし、所定の同意手続きをいただいたお客様がご利用可能となります。2018年9月末時点で、**70,475口座**のお客様にSORのご利用申込みいただきました。価格改善効果等、SOR利用による効果の開示を通じサービス周知に努めてまいります。

■ 執行評価

株式会社QUICKによると、2018年9月にSORをご利用いただいた注文のうち、価格改善した注文の改善効果※は**約定代金100万円あたり344円**となりました。

※価格改善効果は、SOR注文の「実際の約定金額」と約定時点における東証気配から算出した「想定約定金額」との比較により評価します

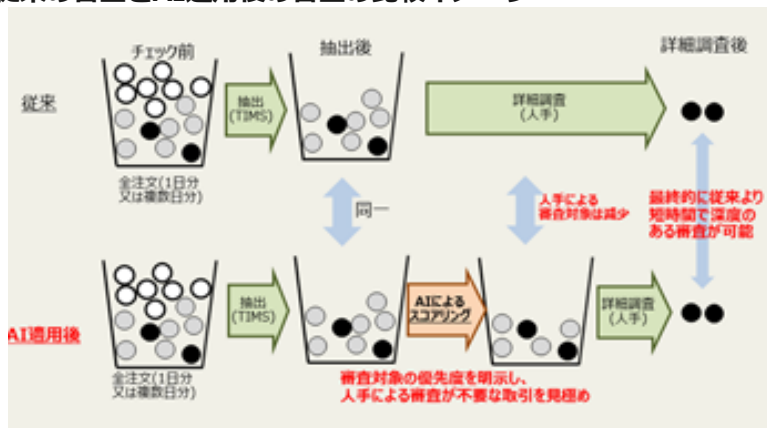


リテール業務

売買審査業務への人工知能(AI)の導入

相場操縦行為等の不正取引の調査を行う売買審査業務において、国内証券会社で初めて人工知能(AI)を導入しました。

■従来の審査とAI適用後の審査の比較イメージ



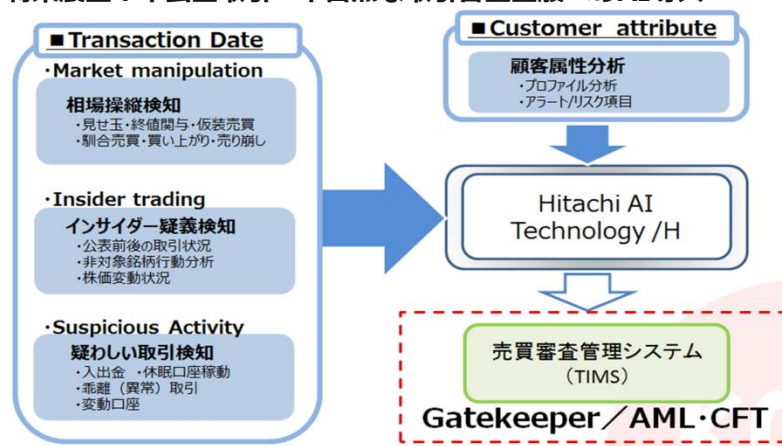
当社は、今後も人工知能(AI)をはじめとする最新のテクノロジーを駆使することにより、売買審査の高度化及び審査の効率化を同時に達成することを目指してまいります。

導入の成果と将来展望

実働約2ヶ月で審査の高度化と効率化に手応え

- ・モデル精度検証と同時進行ながら見せ玉審査対象の50%~60%を人手審査対象外に、審査時間を大幅に削減
- ・スコアの高い順の審査で深度のある精緻な売買審査が可能に
- ・既にモデルのメンテナンス実施、最終的には審査対象の80%以上を人手審査の対象外に、審査時間も従来の1/3から1/4に
- ・見せ玉審査を皮切りに不正取引審査全般の審査にAIを順次導入

■将来展望：不正取引・不自然な取引審査全般へのAI導入



シストレFXリニューアル

お客様の声を“カタチ”にした新スマートフォンアプリ誕生



いつでもどこでもスピーディーに
FXトレードをもっと身近に

シストレFX Plus
for iPhone / Android

2018年9月10日(月)
アプリリニューアル

その他、リニューアルのポイント (9/10~)

- ・高金利で人気の通貨ペアトルコリラ/円の取り扱い開始
- ・通常通貨ペアの発注上限を49万通貨から100万通貨に引き上げ
- ・最新基盤の導入により、業界屈指のスピードでレート生成が可能
- ・カバー取引先に「香港上海銀行 (HSBC)」、「バンク・オブ・アメリカ・エヌ・エイ」を追加し、全9社となることで、よりインターバンク市場の実勢に近いレートを安定的に提供可能

■リニューアル後の取引状況

シストレFX、じぶん銀行FX共に大口取引が活性化。9月の店頭FX市場全体の約定金額が8月比▲11%となる中、シストレFXとじぶん銀行FXの約定金額（2社合計）は▲4%となる。

■アプリ刷新

1,005名のお客様からいただいたアンケートを参考にアプリ刷新。

【相場が変動した際にすぐに発注したい】

- ・**チャート画面に発注機能を実装**し、チャートを見ながら取引可能
- 【経済ニュースを見てからすぐに発注したい】
- ・注文画面への導線を見直し、新アプリでは**最短1タップ**で「注文（ストリーミング）」画面を表示可能（旧アプリは最短3タップ）

■トルコリラ/円の取引状況

取引金額はシストレFX全体の約1%と小さいが、収益は9月総収益の約6%。高い収益率と高金利により新たな収益源となる。

■今後の展望

- ・システム構造の見直しによりホワイトラベル展開が旧基盤の半額に。2018年12月にMUFGグループ、開発ベンダと共同でイベントを開催し、じぶん銀行に次ぐ新規接続先の募集を行う予定。
- ・新基盤を「kabu.com API」と連携させることで、「kabu.com API」経由でFX取引を可能とすることを検討中。

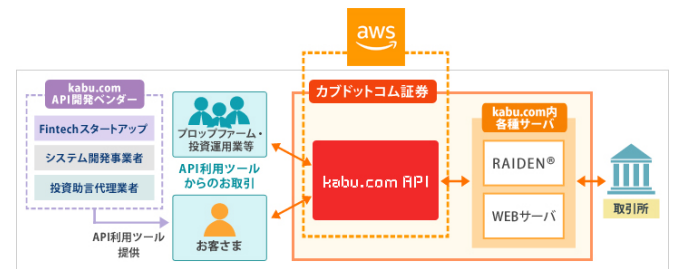
kabu.com API基盤刷新にAWSを採用

当社はMUFGが掲げる「デジタルトランスフォーメーション戦略」に沿い、2012年から株式・先物・オプション取引に対応した「kabu.com API」を提供しておりますが、2018年8月7日よりシステム基盤をリニューアルし、新たにAWS (Amazon Web Services) を採用しました。これにより、これまで以上の高い俊敏性、柔軟性およびセキュリティの提供が可能となりました。

kabu.com API MUFG {APIs}

導入の成果と将来展望

「kabu.com API」は約30社にご活用いただいております。この度のリニューアルにより、AWS社との共同イベント開催、API活用セミナーの開催、「CEATEC JAPAN2018」への当社ブース出展などを行いました。新規接続先は今後益々拡大する見込みです。



(kabu.com APIの概要イメージ)

今後もkabu.com APIの活用により、UI/UXを得意とする異業種企業との連携で新しい投資サービスの体験やお客さまファーストのサービス提供を行い、次世代の金融システムを創造して参ります。

金融商品仲介の施策

①じぶん銀行との協業深化

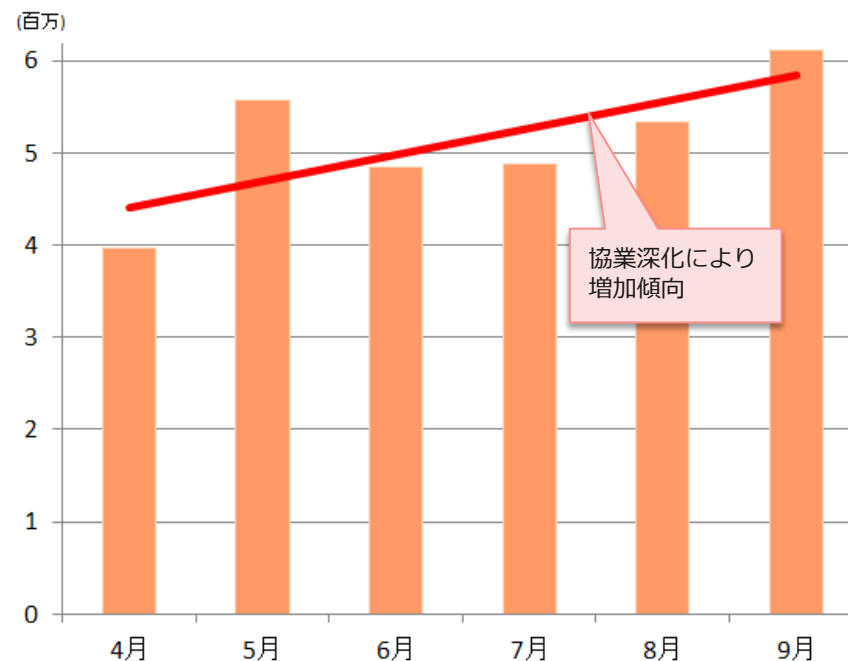
昨年度の同時口座開設、及びキャンペーン効果により、じぶん銀行仲介経由の収益は増加傾向です。**2018年10月には資金決済関連の機能をリリース**し顧客利便性を高めて更なる収益向上を目指します。

②KDDIとの協業

2018年8月より、現物株式手数料割引プラン「auで株式割」の割引対象をau IDを持つ全てのお客様に拡大しました。今後もKDDIとの協業を強化してまいります。

金融商品仲介の収益推移

相場全体が下落傾向のなか、じぶん銀行仲介の収益は増加傾向です。



中期経営計画

当社は、2018年5月15日に、2018年度からの3年間を計画期間とする2018年度版の中期経営計画を策定いたしました。

【Mission】

カブドットコム 証券の使命

お客様の生活をより豊かにするため、高品質・高付加価値な金融関連サービスの提供を通じて、お客様の資産形成と日本の金融資本市場の発展に貢献する。

【Vision】

2020年の 目指す姿

【カブコム2.0】
ネット証券からMUFGデジタル金融企業への進化。
デジタルイノベーションのフロントランナーとして
先進性No.1、多様性No.1、効率性No.1を目指す。

【Strategic Objectives】 戦略の柱

先進性 No.1

MUFGデジタルトランスフォーメーション戦略の先駆けとして、お客様の投資成績に資する先進的サービスを開発・提供
【主要KGI】 外部調査機関評価

多様性 No.1

APIエコノミーの確立、異業種協業の強化、デジタルマーケティングの推進によりBtoB収益を拡大、収益源を多様化
【主要KGI】 ノントラディショナル収益比率、BtoBtoC収益比率

効率性 No.1

デジタルイノベーションを積極的に取り込み、業務運営・手法を刷新、生産性と効率性を飛躍的に向上
【主要KGI】 1人あたり経常利益

※ノントラディショナル収益とは、トラディショナル収益（API、金融商品仲介を除く株式委託手数料及び信用金融収支）以外の収益の合計

※BtoBtoC収益とは、ノントラディショナル収益の一部であり、API、金融商品仲介、ASP、システム販売収支による収益の合計

ROEと株主還元

ROE目標

ROE20%達成
(2021年3月期までに)

配当目標

配当性向50%以上
DOE 8%以上
当期中間配当は6円

株主還元実績推移

決算期	当期純利益	ROE	1株配当額			配当総額	配当性向	DOE	自己株取得	総還元額	総還元性向
			中間	期末	年間						
2015年度	80億円	17.7%	6.0円	6.0円	12.0円	40億円	51%	9.1%	38億円	79億円	100%
2016年度	60億円	13.9%	6.0円	6.0円	12.0円	40億円	68%	9.4%	19億円	59億円	99%
2017年度	63億円	14.5%	6.0円	13.0円	19.0円	63億円	100%	14.5%	なし	63億円	100%
2018年度 (中間)	26億円	12.2%	6.0円	未定	未定	19億円	75%	—	なし	19億円	—

※2016年度の自己株取得、総還元額、総還元性向は、2017/2/9～2017/4/5に取得した自己株式総額から算出
kabu.com Securities Co., Ltd. All rights reserved.

kabu.comは積極的な開示を続けております

- 会社情報・IR情報 <https://kabu.com/company/> ○決算・財務情報 https://kabu.com/company/disclosure/accounting_line.html
- 月次情報開示（業績の推移） https://kabu.com/company/monthly_disclosure/commission/default.html
- 月次情報開示（口座数・約定情報等の推移） https://kabu.com/company/monthly_disclosure/order/default.html
- サポートセンターレポート <https://kabu.com/support/report/default.html>
- 顧客投資成績 https://kabu.com/company/monthly_disclosure/score/default.html
- システムレポート https://kabu.com/company/monthly_disclosure/system/default.html
- SLA精査状況 https://kabu.com/company/monthly_disclosure/sla/default.html
- 売買審査状況 https://kabu.com/company/monthly_disclosure/mktsurvey/default.html
- コーポレートガバナンス報告書 <https://kabu.com/company/profile/governance.html>

■お取引にあたってご注意いただきたい事項

各商品等には価格の変動等による損失を生じるおそれがあります。当社ホームページにて取引内容、リスク等の説明内容事項をご覧ください。

※証券投資は、価格変動、金利の変動、為替の変動等により投資元本を割り込む恐れがあります。自動売買を含むすべてのご注文は必ず約定するものではありません。

お取引の際は、目論見書、約款・規程集及び契約締結前交付書面等をよくお読みいただき、商品特性やリスク及びお取引ルール等をよくご理解の上、ご自身のご判断で無理のない資産運用を行ってください。

※投資信託の購入は、基準価額の変動により元本を割り込み損失を被ることがあります。ファンドにより販売手数料とは別に、信託報酬・解約手数料・その他手数料等を要するものがありますが、各ファンド別に要件・料率等が異なりますので表示できません。お取引に際しては、目論見書（商品毎）および目論見書補充書面（投資信託）をよくお読みください。

※信用取引・指数先物取引・指数オプション取引は、保証金または証拠金以上のお取引が可能であるため、保証金または証拠金を超える大きな損失を被ることがあります。又、取引期限があり取引期限を越えてのお取引はできません。

※外国為替証拠金取引（FX）は、取引金額がお客さまが預託しなければならない証拠金の額に比べて大きい額となっており、投資額以上の損失が生じる可能性があります。又、外国為替証拠金取引は元本や利益を保証するものではなく、為替変動リスクや金利変動等のリスクを伴います。本取引において当社が提示する売値と買値の間には差額があります。

※外国債券の価格は、金利水準の変動により上下するため、償還前に売却する場合には、元本損失が生じることがあります。また、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに対する外部評価の変化等により、損失を被ることがあります。外国債券は、為替相場の変動等により、元本損失が生じたり、債券を発行する組織（発行体）が所属する国や地域、取引がおこなわれる通貨を発行している国や地域の政治・経済・社会情勢に大きな影響を受けたりするおそれがあります。外国債券を購入する場合は、委託手数料はかかりませんが、売買における売付け適用為替レートと買付け適用為替レートには差額があります。上記、適用為替レートは債券の起債通貨によって異なり、実勢レートに基づき当社が決定します。

※お取引に際しては、契約締結前交付書面をよくお読みいただき、商品特性やお取引ルール等をよくご理解の上、ご自身のご判断で無理のない資産運用を行ってください。

※各商品等へのご投資には、商品毎に所定の手数料等が必要です。詳しくは当社の手数料ご案内ページ（<https://kabu.com/cost>）等をご参照ください。手数料には消費税が含まれています。

※掲載情報の最新情報は当社ホームページ（<https://kabu.com/>）にてご確認ください。

◆ご投資にかかる手数料等およびリスクについてはこちらをご参照ください。 <https://kabu.com/company/pressrelease/info/escapeclause.html>

金融商品取引業者登録：関東財務局長（金商）第61号 / 銀行代理業許可：関東財務局長（銀代）第8号 / 加入協会：日本証券業協会・金融先物取引業協会